

## 令和8年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

### 式辞

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

また、本日この佳き日を迎えられましたことにつきまして、これまで深い愛情をもってお支えになってこられたご家族ならびに関係者の皆様に対し、心よりお慶び申し上げます。

春の柔らかな光が降り注ぎ、百花が咲き競うこの佳き日に、第78回歯学部並びに第61回大学院入学式を挙行できますことは、本学教職員一同にとりまして、この上ない慶びでございます。

また本日、ここに、服部誠太郎福岡県知事ならびに藏内勇夫福岡県議会議長をはじめ、多くの来賓の方のご臨席を賜りましたことに対し、ここに謹んで厚く御礼申し上げます。

本学は、1914年(大正3年)の創立以来、一世紀を超える歴史を刻み、今年で112年目を迎えます。全国に29校を数える歯学部・歯科大

学の中にあつて、唯一の公立大学として、「口腔医学の総合大学」を標榜し、我が国の歯学教育ならびに歯科医療の進展に寄与してまいりました。

新入生の皆さんは今、人々の健康と幸福に直接的に関わる歯科医療の道を志し、その第一歩を踏み出されました。歯科医療人とは、高度な専門性ととともに、揺るぎない倫理観と使命感を求められる、極めて崇高な職責を担う存在であります。

昨年度、私たちは「長期ビジョン 2035」を掲げ、激変する社会における本学のあり方を示しました。長期ビジョンは、「九州歯科大学憲章」や「九州歯科大学の基本理念」を基盤に、長期的な期間における本学の到達目標として、公立大学法人としてあるべき姿、目指すべき姿を学内外に示す大方針が記されており、すべての学生および教職員が、明るい未来を創造するための指標でもあります。本ビジョンは「教育」「研究」「診療(附属病院)」「地域連携・国際連携」「法人運営」の5分野で構成されています。その教育分野の冒頭に、本学が目指すべき姿として「日本そして海外の歯科医療を牽引する全人的歯科医療人を育成します。」との記載があります。ここにいう「全人的歯科医療」とは、単に疾患を対象とする

にとどまらず、患者の身体的側面に加え、心理的・社会的背景をも視野に入れ、人間そのものを総合的に理解しようとする医療の姿勢を指します。それはすなわち、患者一人ひとりの人生に深く関わる営みにほかなりません。この指標を体現するためには、卓越した知識と技術に加え、他者の思いを深く汲み取る共感力と対話力が不可欠であります。したがって皆さんには、専門的能力の修得にとどまることなく、人間性、倫理観、そして豊かな感受性を涵養し、総合的な資質を備えた医療人へと成長されることを強く望みます。

申すまでもなく、大学入学は終着点ではなく、新たなる出発点であります。

これより皆さんは、歯科医療人の卵として、それぞれの志に向かい歩みを進めることとなります。その道のりは決して平坦ではなく、時に困難や挫折に直面することもあるでしょう。しかしながら、それらの経験こそが人を鍛え、真に強くするものであります。いかなる時も志を失うことなく、しなやかに立ち上がる力、すなわちレジリエンスを培っていただきたいと存じます。

本学には充実した支援体制がありますが、大学での学びは主体性が不可欠です。自ら学び、自らの可能性を信じて努力を重ねてください。

さて、現代社会は大きな変動の渦中にあります。少子高齢化の進行に伴う人口構造の変化はその一端に過ぎず、デジタル技術や人工知能の飛躍的進展、地球規模の環境問題など、社会の在り方そのものが根底から問い直される時代に私たちは生きております。このような時代において、大学で学ぶ意義とは何か。それは単なる知識の集積ではなく、「自ら問いを立て、自ら考え抜く力」を養うことにあります。

AIが高度な解を提示し得る現代にあって、人間に求められるのは、何を問うべきかを見極める力にあります。どうか本学での学びを通じ、多くの問いと向き合い、思索を深めてください。また大学における学びは専門領域にとどまるものではありません。多様な人々との交流、未知の領域との巡り合い、さらには失敗の経験までもが相互に作用し、皆さんの内に新たな価値を創出します。いわば「知の融合」こそが、予測困難な未来を切り拓く力となるものであります。

いかに技術が進歩しようとも、患者の不安に寄り添い、信頼を築く営みは、人間にのみ許されたものであります。思いやりと温もりに裏打ちされた医療こそが、時代を超えて求められる本質であります。科学と人間性、その両輪をもって歩むことを忘れないでください。

大学院に入学された皆さんは、これからは「知を学ぶ側」から「知を創造する側」へと踏み出します。現代社会は、複雑に絡み合った課題を抱えています。歯科医学という専門領域を深めることはもちろん、学際的な視点を持って社会課題に向き合ってください。皆さんの研究が、福岡・北九州という地から、アジアへ、そして世界へと発信され、人類の健康と幸福(ウェルビーイング)に寄与することを強く期待しています。

大学院での学び、特に研究活動は、まさしく未知との遭遇になります。研究活動は、解のない問題に対峙するところから始まります。歯科医学分野には、まだまだ多くの課題が存在しています。それらを解決するためには、基礎研究から臨床研究、疫学研究など、場合によっては他分野との連携を通じて、知的好奇心を失わず前向き且つ主体的に行動することが大切です。

本学は、昨年度「口腔医学総合研究センター」及び研究者の研究活動を総合的に支援する「University Research Administrator: URA」を設置しました。本学が立地する福岡県は、地理的にアジアに近く、また歴史的・文化的にもアジア諸国との交流が盛んな地域であり、新たな産業をリードする企業が多数あります。本学では、今後もアジア諸外国との共同研究を通じた国際交流、加えて他大学及び企業との産学連

携の推進を図りながら、若手研究者の育成を積極的に行なっていきます。昨年度から、起業家を育成するためのアントレプレナーシップ教育も大学院教育に導入しており、皆さんの中から、将来、自らの研究の成果を起業に繋げるような逸材が誕生することを期待しております。

多くの新入生がこれより親元を離れ、新たな生活を始めることでしょう。自立した生活は貴重な経験であると同時に、これまで支えてくださった方々への感謝を改めて深く認識する機会ともなります。その思いを胸に刻み、日々を一日一生の精神を持って大切に積み重ねていってください。さらに、歯科医療は社会と不可分の関係にあります。皆さんには本学の学生としての自覚とともに、社会の一員としての責任を自覚し、広い視野をもって社会に参画されることを期待しております。

結びに、私の敬愛する言葉を贈ります。

「真の発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目を持つことである」フランスの作家、マルセル・ブルーストの言葉であります。

どうか本日を契機として、慣れ親しんだ視点を一度脱ぎ捨て、歯科医療という広大な知の世界、そして併せて皆さんの周りの社会を「新しい目」で眺めてみてください。見慣れた日常や、すでに知っているはずのもの

のであっても、視点を変える、すなわち新しい目を持つだけで、そこには全く別の世界が広がっていることに気づくことでしょう。

新入生の皆さんの前途が、知的探究心に満ち、実り多きものとなりますことを心より祈念申し上げ、式辞といたします

令和8年4月3日

九州歯科大学

学長 栗野 秀慈